



野村 諒子

(フォーラム三島)



ラーメンフェスタ

■都市公園の非営利団体の 利用促進

Q 楽寿園などの都市公園において、民間非営利団体の利用を推進し、利用者増、収益率アップなど、効率的な運営はできないか伺う。

A 民間団体主催、共催のイベント開催を促進し、集客力の増加を図る。また、民間非営利団体の出店も推進する。収益増加方策などについては、現在、楽寿園運営委員会で検討を進めており、9月に提言書が提出される予定である。

■三島市公共施設白書の 今後の活用

Q 公共施設白書を活用し、三島の公共施設を具体的にどのように管理運営していくのか、今後の運用と方向性について伺う。

A 公共施設保全計画などの策定や、市民の皆様と課題を共有する基礎資料として活用する。第2段階として、平成26年度中に、将来の人口構成や財政負担などを考慮した公共施設のあり方である基本方針を策定する予定である。

堀江 和雄

(公明党)

◆用語解説◆

オープンデータとは…誰もが利用できるオープンなデータ、誰でも自由に再利用できるようあらかじめ許諾やデータ形式の整備が施されているデータのことです。



オープンデータ (イメージ)

■三島市のICT (情報通信技術) 戦略

Q 三島市行政のさらなる見える化となる、オープンデータ推進への取り組みについて伺う。

A オープンデータは、行政の透明性、信頼性の向上、地域経済・社会の活性化につながり、また、新たな民間活力を呼び起こす効果も期待できるため、三島市としても今年度より、オープンデータの公開に積極的に取り組んでいきたい。

Q 教育現場でタブレット端末を活用するために、先進地での効果を検証するべきではないか。

A 今年度、試行的に小学校1校のパソコン教室でタブレット型パソコンを導入し、活用方法や運用・管理面などソフト面、ハード面におけるメリット、デメリットの検証を行う。また、授業手法の研究などにも積極的に取り組んでいく。

細井 要

(改革みしま)



農事体験

■小規模校のあり方

Q 人口減少は学校の小規模化を進行させる。小規模特認校、教育課程特例校の制度を導入している坂小学校の成果をどう捉えているか。

A 教育課程特例校として、外国語活動に力を入れたり、農事体験や縦割り活動を活発に行ったりするなど、小規模校ならではの利点を生かし、特色ある教育活動を行うことで、約1~2割の児童が市内各地より通学し成果を上げている。

Q 交流は子どもたちの可能性を助長する。小規模校だから実現できた福島県猪苗代町翁島小学校と坂小学校の交流の内容を伺う。

A 自然教室を中心に、1年おきに行き来して活動する。平成26年度は猪苗代町で、雪国体験や猪苗代湖、野口英世についての学習を行い、平成27年度に来島の際には、富士山に関する学習や農事体験を行う予定である。



岡田 美喜子

(新未来21)



北中学校屋内運動場

■社会ニーズに沿った 教育環境づくり

Q 北中学校の校舎および屋内運動場は耐用年数が間近に迫った市内で一番古い教育施設であるが、改築などの取り組みについて伺う。

A 平成25年度に行った耐力度調査の結果、南校舎は国の交付金が活用できることとなったため、改築を計画している。北校舎は既に耐震補強をしており、屋内運動場は調査の結果耐力度があることから、当面は改修により使用していく。

■介護保険ボランティア ポイント制度

Q 高齢者が介護施設などで活動することにより介護保険料に換金できるポイントを付与する制度を設けてはどうか。

A 生きがいづくりや介護予防につながるものと考えているが、需要があって事業が成り立つことでもあり、介護予防のいろいろな方策の一つとして、メリット・デメリットを勘案しながら、研究していきたい。

弓場 重明

(無会派)



三島市総合計画審議会

■三島市総合計画と財政計画の整合性

Q 最上位計画である三島市総合計画の平成26・27年度の2年間について見直しがなされた。そこで、財政計画との整合性について伺う。

A 総合計画基本計画に掲載した事業は、実効性を担保するため、限られた予算における財政計画の中で実施計画を策定し、各年度の予算編成や行政運営の指針とするとともに、優先順位を明確にして政策的に事業を進めている。

Q 臨時財政対策債を含む市債は、約380億円ある。将来を見据えた市債の償還計画のシミュレーションについての考え方を伺う。

A 仮に今後平成34年度まで、毎年40億円を借り入れた場合のシミュレーションでは、平成32年度までは元利償還金が減少するものの、その後増加に転じることから、より一層の行政改革と経費節減を図り、償還財源の確保に努める。

古長谷 稔

(フォーラム三島)

【他の質問事項】

花と緑でコミュニティを発展させる仕掛け



■通学路の安全性確保

Q 東駿河湾環状道路の開通で車の通勤経路などが変わり、通学路に新たな危険箇所がないか心配する。どう把握しているか伺う。

A 三島市通学路安全対策推進計画に基づき、教職員やPTA、自治会などが通学路を点検し、危険箇所を選定する。その報告を受け、対応を検討していく。緊急を要する場合は関係各課および警察が情報を共有し、迅速に対応している。

■広域的なごみ処理

検討の現状

Q 焼却施設の15年延命化を選択した今、再度、広域的なごみ処理を真剣に検討する必要がある。この点に関する当市の考え方を伺う。

A 広域的なごみ処理は、本来もっと県がリーダーシップを発揮して推進していくべき課題と考えるが、将来のごみ処理方法の重要な選択肢の一つであるため、駿豆地区広域市町ごみ処理問題検討会に検討課題として投げかけていく。